国立新美術館開館5周年

復興から高度成長へ。
日本が明るい未来を目指して、
がむしゃらに突き進んだ時代。
精神の自由と未知の美を求め、
「美術」の壁に挑んだ
前衛美術グループ、「具体」。
この伝説的グループの
18年間を回顧する、待望の展覧会。

GUTAI
The Spirit of an Era

「具体」

ニッポンの前衛
18年の軌跡

国立新美術館
Kokuritsu-Shin-Bijutsukan | 東京・六本木
企画展示室 1E
July 4 – September 10, 2012
The National Art Center, Tokyo

2012年7月4日[水]—9月10日[月] | 毎週火曜日休館

主催 | 国立新美術館　開館時間 | 午前10時—午後6時（金曜日は午後8時まで）入場は閉館の30分前まで

THE NATIONAL ART CENTER, TOKYO 5TH ANNIVERSARY
新 5TH 国立新美術館

企画概要

具体美術協会(「具体」)は、1954年、関西の抽象美術の先駆者・吉原治良をリーダーに、阪神地域在住の若い美術家たちで結成された前衛美術グループです(1972年解散)。グループ名は、「われわれの精神が自由であるという証を具体的に提示したい」という思いをあらわしています。

「精神」とは個人に固有のものであり抽象的なものです。リーダーの吉原は、これまでになかったものを作ること、抽象的な表現であることの2点を会員たちに厳しく求め、発表の場として、公園や舞台、空中を使う展覧会などを企画しました。会員たちはこれに応え、奇想天外な発想で独創的、革新的な作品を次々と生み出します。それらは当時、国内ではほとんど注目されませんでしたが、海外で高い評価を受け、"GUTAI"の名は1950年代後半から欧米の美術界で広く知られるようになりました。

解散後も、ヨーロッパの美術館では「具体」の回顧展が何度も企画されています。しかし、日本では、1980年代になって再評価が進み、関西を中心に回顧展が開かれてきたものの、残念ながら東京ではこれまで、その18年間の活動の全容を振り返る場は一度もありませんでした。本展は、その初めての機会となります。

「具体」が駆け抜けた1950—60年代は、日本が敗戦から立ち直り、右肩上がりの経済成長により奇跡的な復興を遂げた時代でもありました。本展では、そんな時代を象徴するかのようなチャレンジ精神、創造的なエネルギーあふれる作品、約150点を一堂にご紹介します。

展示内容
(予定)

「具体」の18年間の活動を、年代順に振り返ります。

—

第1章｜プロローグ 1954年 [fig.01]

—

第2章｜未知の美の創造 1955年—1957年

「具体」を結成した吉原は、会員たちに「これまでになかったものを作れ」と厳しく指示する一方、それまでの「美術」の概念にとらわれない斬新な発想を促すため、公園や舞台を使った作品発表など、ユニークな企画を次々と打ち出しました。ここではそうしたなかから生まれた作品の数々を、後年に再制作された作品や記録写真を交えながらご紹介します。[fig.02,03]

—

第3章｜ミスターグタイ＝吉原治良

「具体」の活動の背景には、絶対的なリーダーだった吉原治良の芸術観がありました。それは、彼の青年期、1920年代、30年代に阪神間(大阪と神戸の間に位置する住宅地域)で育まれたものです。ここでは、吉原の「具体」以前の作品をたどりながら、「具体」が戦前の阪神間の文化的、精神的風土と密接なつながりを持つグループであることをご紹介します。

—

第4章｜「具体」から"GUTAI"へ 1957年—1965年

1957年、「具体」はフランス人美術評論家で"アンフォルメル"の提唱者、ミシェル・タピエと運命的な出会いをします。「具体」の活動に驚嘆したタピエは、「具体」の作品、とりわけ輸送しやすい絵画を欧米での企画展や自著書で紹介するようになり、「具体」の活動は一気に国際化します。ここでは、当時欧米で紹介された作品を中心にご紹介します。[fig.04,05]

—

第5章｜新たな展開 1965年—1971年

タピエとの出会いを機に国内外で発表を重ねた「具体」でしたが、その行為や物質感を強調した作品は、1960年代中頃になると次第に新鮮さを失っていきました。未知の美の創造を掲げるグループとしてこれに危機感を覚えた吉原は、新しい人材を積極的に招き入れ、活性化を図ります。ここでは、そうした「具体」の新会員たちの作品をご紹介します。[fig.06]

—

第6章｜エピローグ 1972年

01

02

03

04

05

01
吉原治良（中央）と「具体」の会員たち（山崎つる子の作品の前で）
1956年 芦屋公園 写真提供｜芦屋市立美術博物館
02
白髪一雄《泥にいどむ》制作風景（泥のなかに半裸で入り身体全体を使って描く）
小原会館・東京 1955年 写真提供｜兵庫県立美術館
03
嶋本昭三の制作風景（絵具の入ったガラス瓶を投げつけて描く）
小原会館・東京 1956年 写真提供｜兵庫県立美術館
04
吉原治良とミシェル・タピエ 大阪なんば高島屋
1958年 写真提供｜兵庫県立美術館
05
第6回具体美術展会場での吉原治良（中央）
マーサ・ジャクソン画廊・ニューヨーク 1958年 写真提供｜芦屋市立美術博物館
06
第19回具体美術展会場風景 セントラル美術館・東京
1967年 写真提供｜兵庫県立美術館

06

出品作家
（予定・50音順）

01｜今井祝雄（いまい・のりお 1946年–）
02｜今中クミ子（いまなか・くみこ 1939年–）
03｜上前智祐（うえまえ・ちゆう 1920年–）
04｜浮田要三（うきた・ようぞう 1924年–）
05｜大原紀美子（おおはら・きみこ 1934年–2003年）
06｜小野田 實（おのだ・みのる 1937年–2008年）
07｜金山 明（かなやま・あきら 1924年–2006年）
08｜菅野聖子（かんの・せいこ 1933年–1988年）
09｜聴濤襄治（きくなみ・じょうじ 1923年–2008年）
10｜喜谷繁暉（きたに・しげき 1929年–2009年）
11｜木梨アイネ（きなし・あいね 1929年–1986年）
12｜坂本昌也（さかもと・まさや 1928年–2010年）
13｜嶋本昭三（しまもと・しょうぞう 1928年–）
14｜白髪一雄（しらが・かずお 1924年–2008年）
15｜白髪富士子（しらが・ふじこ 1928年–）
16｜鷲見康夫（すみ・やすお 1925年–）
17｜田井 智（たい・さとし 1939年–1971年）
18｜高崎元尚（たかさき・もとなお 1923年–）
19｜田中敦子（たなか・あつこ 1932年–2005年）
20｜田中竜児（たなか・りゅうじ 1927年–）
21｜坪内晃幸（つぼうち・てるゆき 1927年–2005年）
22｜猶原通正（なおはら・みちまさ 1941年–1995年）
23｜名坂千吉郎（なさか・せんきちろう 1923年–）
24｜名坂有子（なさか・ゆうこ 1938年–）
25｜堀尾昭子（ほりお・あきこ 1937年–）
26｜堀尾貞治（ほりお・さだはる 1939年–）
27｜前川 強（まえかわ・つよし 1936年–）
28｜正延正俊（まさのぶ・まさとし 1911年–1995年）
29｜松谷武判（まつたに・たけさだ 1937年–）
30｜松田 豐（まつだ・ゆたか 1942年–1998年）
31｜向井修二（むかい・しゅうじ 1940年–）
32｜村上三郎（むらかみ・さぶろう 1925年–1996年）
33｜元永定正（もとなが・さだまさ 1922年–2011年）
34｜森内敬子（もりうち・けいこ 1943年–）
35｜山崎つる子（やまざき・つるこ 1927年–）
36｜吉田稔郎（よしだ・としお 1928年–1997年）
37｜ヨシダミノル（1935年–2010年）
38｜吉原治良（よしはら・じろう 1905年–1972年）
39｜吉原通雄（よしはら・みちお 1933年–1996年）
以上39名

展覧会の見どころ

1.時代が生んだチャレンジ精神と創造的エネルギー

「具体」が本格的な活動を開始した1955（昭和30）年は、戦後復興の起爆剤となったいわゆる「神武景気」が起こった年です。そして、1972（昭和47）年の解散直後にはそれまで右肩上がりだった経済成長にストップがかかる「オイルショック」がありました。「具体」が活動した18年間は、日本の高度経済成長期とぴったり重なり合います。「具体」の作品が発散する創造的なエネルギー、未知の美を追求するチャレンジ精神、美術を通じて世界の人々と通じ合えるという理想主義的な考え方、そして世界を驚嘆させた独創性は、今日の私たちの心に、明るさや勇気、活力を呼び覚ましてくれるでしょう。

–

2.東京では初の大規模な回顧展

「具体」の活動を回顧する展覧会は、これまで関西を中心に美術館で何度か開催されてきましたが、東京の美術館では1990（平成2）年に渋谷区立松濤美術館で「具体」の一時期の活動に焦点を当てた展覧会が開催されて以来、一度もありません。今回の「具体」展は、近年欧米で再評価の機運が高まっているものの、東京ではなかなか実作を見る機会がなかった「具体」の、大規模なものとしては初となる待望の「具体」回顧展です。本展は東京のみの開催です。

–

3.「具体」とは何だったのかを検証

今回の回顧展では、「具体」の結成から解散までの18年間を対象とし、会員として活動した作家の「具体」当時の作品をできる限り網羅的に紹介して、「具体」の全体像からその本質に迫ります。日本を代表する前衛美術グループ「具体」とはどのようなグループであったのか、彼らの活動の意義はどこにあるのか、いかなる歴史的、時代的、文化的背景から生まれてきたのか。今回の展覧会は、「具体」に関するさまざまな疑問に答えるものです。

–

4.約半世紀ぶりの里帰り作品、初公開の貴重な映像を紹介

「具体」の作品は、当時日本ではほとんど売れなかったため、優れた作品が海外のコレクターに売られていきました。それらのうちのある部分は、1980年代以降に買い戻され、日本の美術館のコレクションとなっていますが、いまもなお多くの作品が欧米の美術館やコレクターの所蔵になっています。今回の「具体」展では、そうした作品の約半世紀ぶりの里帰りも実現させる予定です。

また、近年発見された1955（昭和30）年の東京、小原会館での記念すべき第1回具体美術展を収めた幻の映像（当時のニュース映画）も公開します。

具体美術協会(具体)略年表

1954(昭和29)年08月	吉原治良を代表者に、吉原に私淑する阪神在住の若手美術家17名が「具体美術協会」結成
1955(昭和30)年01月	機関誌『具体』創刊 ▸以後、第14号まで不定期に刊行
07月	真夏の太陽にいどむモダンアート野外実験展(芦屋公園)
10月	第1回具体美術展(小原会館・東京) ▸以後、1968(昭和43)年の第21回展まで、大阪、京都、東京などで不定期に開催
1956(昭和31)年04月	一日だけの野外展(廃墟展)(兵庫県武庫川河口廃墟) ▸アメリカの雑誌「ライフ」の求めに応じて開いた非公開展覧会
07月	具体野外美術展(芦屋公園)
1957(昭和32)年05月	舞台を使用する具体美術(産経会館・大阪) ▸7月に東京でも開催
09月	フランス人の美術評論家で、抽象美術の新しい美学“アンフォルメル”の提唱者ミシェル・タピエが来阪
1958(昭和33)年04月	舞台を使用する具体美術 第2回発表会(朝日会館・大阪)
	新しい絵画 世界展――アンフォルメルと具体(高島屋・大阪)
	▸「具体」とタピエが推薦する欧米の前衛美術家との国際交流展 この後長崎、広島、東京、京都を巡回
09月	第6回具体美術展(マーサ・ジャクソン画廊・ニューヨーク) ▸この後、全米を巡回
1959(昭和34)年05月	アルテ・ヌォヴァ(パラッツォ・グラネリ、トリノ)に出品
1960(昭和35)年01月	クリスト・クッシア展(高島屋・大阪)を主催
04月	国際スカイフェスティバル(高島屋屋上・大阪)を主催 ▸アドバルーンを使った空中での展覧会
1961(昭和36)年03月	日本の伝統と前衛(国際美学研究所・トリノ)に出品
1962(昭和37)年09月	大阪中之島に吉原治良所蔵の古い土蔵を改装し「グタイピナコテカ」を開設
	▸以後、具体美術展、メンバーの個展、欧米前衛美術家の個展などを開催 活動の拠点となる
11月	だいじょうぶ月は落ちない〈具体美術と森田モダンダンス〉(サンケイホール・大阪)
1965(昭和40)年04月	ヌル1965(アムステルダム市立美術館)に出品
	日本の新しい絵画と彫刻(サンフランシスコ美術館)に出品 ▸この後、全米を巡回
11月	具体グループ展(スタドラー画廊・パリ)
1966(昭和41)年04月	ヌル1966(オレッツ国際画廊・デン・ハーグ)に出品
	海上のゼロ(オレッツ国際画廊・デン・ハーグ)に出品 ▸ドイツのグループ「ゼロ」、オランダのグループ「ヌル」とともに
	オランダ、スヘフェニンゲン埠頭で予定していたプロジェクト「海上のゼロ」の計画図を展示
06月	第2回ローザンヌ国際画商展(州立美術館・ローザンヌ)にグタイピナコテカが招待され、会員全員が出品
1967(昭和42)年05月	具体グループ・大阪・日本(エクスペリメント・スタジオ、ロッテルダム)。
06月	具体グループ展[具体オーストリア展](ハイデ・ヒルデブランド画廊・クラーゲンフルト)
1970(昭和45)年03月	日本万国博覧会の万博美術館で屋外展示、みどり館では具体グループの作品展示
04月	グタイピナコテカ、都市計画による立ち退きで閉鎖
08月	日本万国博覧会のおまつり広場で「具体美術まつり」
1971(昭和46)年10月	大阪中之島に「グタイミニピナコテカ」を開設
1972(昭和47)年02月	吉原治良没 3月末日をもって具体美術協会解散
–	–
〈解散後の記録〉	
1976(昭和51)年11月	具体美術の18年展(大阪府民ギャラリー) ▸記録集『具体美術の18年』刊行
1979(昭和54)年01月	吉原治良と具体のその後(兵庫県立近代美術館)
1983(昭和58)年05月	日本のダダ・日本の前衛1920/1970(デュッセルドルフ市立美術館)
1985(昭和60)年09月	絵画の嵐・1950年代 アンフォルメル/具体美術/コブラ(国立国際美術館・大阪)
12月	再構成:日本の前衛美術1945―1965(オックスフォード近代美術館)
	具体――行為と絵画(スペイン国立現代美術館) ▸この後、ユーゴスラビア国立近代美術館、兵庫県立近代美術館に巡回
1986(昭和61)年12月	前衛の日本 1910―1970(ポンピドゥセンター・パリ国立近代美術館)
1990(平成02)年04月	〈具体〉未完の前衛集団(渋谷区立松涛美術館)
12月	1950年代の具体グループ(ローマ国立近代美術館)
1991(平成03)年03月	「具体」――日本の前衛 1954―1965(ダルムシュタット市立マチルデンヘエ美術館)
1992(平成04)年06月	具体I 1954―1958(芦屋市立美術博物館)
1993(平成05)年01月	具体II 1959―1965(芦屋市立美術博物館)
06月	具体III 1965―1972(芦屋市立美術博物館)
	第45回ヴェネツィア・ビエンナーレに具体グループが特別出品、野外展を再現
10月	具体1955/56―日本現代美術のリスタート地点――(ペンローズインスティテュート・東京)
1994(平成06)年02月	戦後日本の前衛美術(横浜美術館) ▸この後、グッゲンハイム美術館、サンフランシスコ近代美術館を巡回
1995(平成07)年04月	戦後文化の軌跡 1945―1995(目黒区美術館) ▸この後、広島市現代美術館、兵庫県立近代美術館、福岡県立美術館を巡回
1997(平成08)年03月	トリノ・パリ・ニューヨーク・大阪――タピエ 別の芸術(トリノ市立近代美術館)
	▸この後、トゥールーズ/ミディ=ピレネー地方 近現代アート・スペース
1998(平成09)年02月	アクション 行為がアートになるとき(ロサンゼルス現代美術館)
	▸この後、オーストリア応用美術博物館、バルセロナ現代美術館、東京都現代美術館を巡回
1999(平成10)年05月	「具体」(ジュ・ド・ポーム国立ギャラリー・パリ)
2004(平成15)年01月	結成50周年記念「具体」回顧展(兵庫県立美術館)
2006(平成17)年04月	ゼロ――1950、60年代の国際的前衛美術(クンスト・パラスト美術館・デュッセルドルフ)
	▸この後、サン・テティエンヌ近代美術館に巡回
2009(平成21)年06月	第53回ヴェネツィア・ビエンナーレのテーマ展に具体グループの作品が出品される。
2010(平成22)年10月	「具体」――時間と空間による絵画(州立美術館・ルガーノ)
2011(平成23)年09月	Nul=0.――国際的文脈におけるオランダの前衛 1961―1966(スキーダム市立美術館)
2013(平成25)年02月	素晴しい遊び場(グッゲンハイム美術館・ニューヨーク)

関連イヴェント

［シンポジウム］

「具体」再評価の過去と現在

7月14日［土］13:00－17:00｜12:30開場

河崎晃一氏［インディペンデント・キュレイター］
萬木康博氏［美術評論家］
マテイヤス・フィッサー氏［ゼロ・ファンデーション創立ディレクター］
ミン・ティアンポ氏［カールトン大学准教授、グッゲンハイム美術館「具体」展共同キュレーター］
平井章一［国立新美術館主任研究員・本展担当者］

1972年の解散後、「具体」の再評価が国内外でどのように展開してきたかや、いま評価の視点がどこに置かれているかを、「具体」関連の展覧会の企画担当者の講演とディスカッションで検証します。（通訳付）

［座談会］

“3M”から見た「具体」

8月4日［土］14:00－15:30｜13:30開場

前川強氏
松谷武判氏
向井修二氏
（いずれも元「具体」会員）

1960年代前半に相次いで「具体」会員となり、名前のイニシャルから“3M”と称された前川強氏、松谷武判氏、向井修二氏に、「具体」当時のエピソードやそれぞれの「具体」観を語っていただきます。

いずれも会場は国立新美術館3階講堂 定員｜260名（先着順）、聴講無料ですが、本展観覧券（半券可）の提示が必要です。
各イヴェントの日時や内容は変更される場合があります。
詳細やその他関連イヴェント等最新の情報については、当館ホームページをご覧ください。

観覧料（税込）

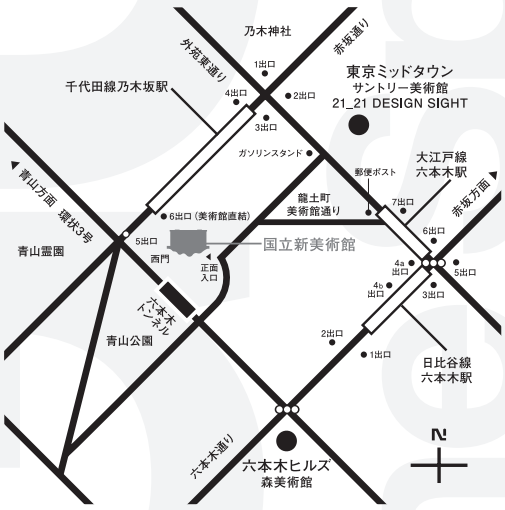
当日｜一般 1,000円　大学生 500円
前売｜一般 800円　大学生 300円
団体｜一般 800円　大学生 300円

高校生、18歳未満の方および障害者手帳をご持参の方（付添の方1名を含む）は無料
団体券は国立新美術館のみで販売（団体料金の適用は20名以上）
会期中に当館で開催中の他の企画展および公募展のチケット、またはサントリー美術館、森美術館（六本木アート・トライアングル）で開催中の展覧会チケット（半券可）を提示された方は、団体料金が適用されます。

前売券および当日券は、チケットぴあ（Pコード｜765－133）、ローソンチケット（Lコード｜32349）でも取り扱っています（手数料がかかる場合があります）。
前売券は2012年4月25日［水］から7月3日［火］まで販売（ただし国立新美術館は5月16日［水］から7月2日［月］まで）

開催情報は変更となる場合があります。最新情報は当館ホームページ、ハローダイヤルでご確認ください。

地図



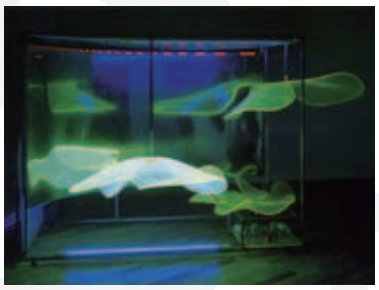
国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木7－22－2
TEL｜03-5777-8600（ハローダイヤル） URL｜http://www.nact/jp/

［アクセス］
東京メトロ千代田線 乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口（美術館直結）
東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a出口から徒歩5分
都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7出口から徒歩4分

広報用画像データ一覧

国立新美術館開館5周年『「具体」──ニッポンの前衛 18年の軌跡』

展覧会広報用として画像をご用意しております。ご希望の場合は別紙の申込書に必要事項をご記入の上、ファックスにてお申し込みください。（メールで直接お申し込みいただくことも可能です。）
プレスリリース内で使用している記録写真の無断使用はお断りします。

番号	画像	和文記載およびクレジット
1		吉原治良 《黒地に赤い円》 1965年 アクリル・布 181.5×227.0cm 兵庫県立美術館蔵
2		村上三郎 《作品》 1958年 油彩・布 184.1×146.0cm 北九州市立美術館蔵
3		元永定正 《作品》 1962年 アクリル・布・板 172.0×229.3cm 兵庫県立美術館（山村コレクション）蔵
4		松谷武判 《WORK 65》 1965年 ビニール・布 182.2×142.6cm 兵庫県立美術館蔵
5		ヨシダミノル 《Just Curve '67 Cosmoplastic》 1967年 ステンレス、プレクシグラス、蛍光灯、モーターほか 270.0×150.0×175.0cm 高松市美術館蔵

国立新美術館開館5周年
『「具体」──ニッポンの前衛 18年の軌跡』/*GUTAI: The Spirit of an Era*
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

国立新美術館 広報担当 行
Fax | 03-3405-2532　E-mail | pr@nact.jp

画像データ申込み（ご希望のデータの番号にチェックをつけてください）

□ 1　□ 2　□ 3　□ 4　□ 5

貴社名 |

媒体名 |

ご担当者名 |

TEL |　　FAX |

E-mail |

画像到着希望日 |　　月　　日　　時ごろまでに送付

掲載／放送予定日（コーナー名） |

プレゼント用招待券申込み（ご希望の場合はチェックをつけてください）

□ 10組20枚を希望します。

発送は6月上旬を予定しております。チケット発送先となるご住所をご記入ください。

〒

写真ご使用に際してのお願い

- 作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- 写真掲載にあたっては、［記載クレジット］全文を表記してください。
- トリミングおよび文字のせはできませんのでご了承ください。
- 基本情報確認のためゲラ刷り・原稿の段階で下記の広報担当までファックスまたはE-Mailにてお送りください。
- 掲載紙・誌等を必ず広報担当までご送付いただきますようお願い致します。
- またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願い致します。

報道関係のお問い合わせ | 国立新美術館広報担当 石松、窪田
Tel | 03-6812-9925　Fax | 03-3405-2532　E-mail | pr@nact.jp